令和８年度 第２回 東陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1　開催日時　令和８年７月７日（火）　14時00分～15時30分

2　開催場所　東陽中学校会議室

3　出席委員　大橋 美義、山田 玲子、小田 明美、飯塚 正師、中村 健二、中津川 隆久、袴田 伯領

4　欠席委員　なし

5　学　　校　中野 敬之（校長）、神村 由貴子（教頭）、柏木 直人（教務主任）、松島 秀樹（2年学年主任）、小杉 理沙（CSディレクター）

6　教育委員会　横井 靖二（学校・地域連携課）

7　傍聴者　なし

8　会議録作成者　CSディレクター 小杉 理沙

9　議長の選出

今年度は順番で議長を務めることとなっており、今回は中村委員に議長を務めていただくことを全員意義なく承認した。

10　協議事項

（1） キャリア教育「職場体験」の推進について
（2） 授業支援ボランティアについて
（3） 部活動の地域展開について
（4） 働き方改革の推進について

11　会議記録

司会の教頭から、委員総数 7 名のうち 7 名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)キャリア教育「職場体験」の推進について

2年学年主任の松島から、11月5・6日に行われる職場体験についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

・職場体験ができる事業所の数の想定は足りているのか。（中村委員）
・生徒の人数に対しての事業所数は足りている。ただ、サービス業を希望する生徒が多く、希望に沿うためにはあと3人分のサービス業の枠が必要。必ずしも希望通りにいかないことや、どんな所に行っても学ぶ意義があることは教えている。（松島）
・昨年度の課題にもなった、行き帰りの問題は大丈夫か。遠い場所は大変ではないか。（飯塚委員）
・昨年度、遠方でも希望する内容の職場であれば充実した体験をすることができた生徒もいた。ただ、そうではない場合、無理のない範囲で行うが、交通費や送迎をお願いすることがある。（教頭）
・新規受け入れ先を探すのであれば、昨年度の受け入れ先事業所のリストをもらいたい。（大橋会長）

（2）授業支援ボランティアについて

教頭から授業支援ボランティアについて説明があり、委員からは以下の発言があった。

・地域には様々な人材があり、もっといろんな方がいると思うし、授業の支援も実際はそこまで難しいことではなく、安全の見守りが中心のようであった。（大橋会長）

・美術のボランティアについては非常勤で美術を教えている先生が担当してもらえることになり、授業支援ボランティアについては見通しがついた。（教頭）

（3）部活動の地域展開について

議長の指示により、教頭から資料に基づき説明があり、委員からは以下の発言があった。

・「はまクル」の施設利用委員会は毎月開催するのか。年に１度のみなのか。（中村委員）

・年に１度のみ。「はまクル」の初回の施設利用委員会の際に、代表の方同士で連絡先の交換をしてもらい、教員の介入をなくし、働き方改革にも繋げていく。（教頭）

・「はまクル」の指導者の中に、教員が入っているが異動をした場合どうなるのか。教育委員会には先生たちの異動も考慮してもらいたい。子ども達だけでなく、コーチ陣も育てていってほしい。（飯塚委員）

・他校にも良い指導者がいて、他校とタイアップして指導していくことを考えている。職員の異動があっても、持続可能な組織にしていく必要がある。地域の子ども達を地域で育てていければと思う。（柏木）

・表側に出てこない、報酬や会費などの問題は発生しないのか。（大橋会長）

・それぞれのクラブで教育委員会作成のマニュアルに沿って進めてもらう。申請をすれば市からの補助金も出る。（校長）

・月謝ではなく、1 回いくらでやっているクラブもある。月謝の方が会計的には楽だが、敷居を低くし、部員の確保・活動参加のしやすさに努めている。（柏木）

・まだ過渡期。最終的には平日も地域展開していくと思うが、平日は指導者側も難しいのではないか。（中村委員）

・補助金もない場合、クラブごとでやってもらうのは習い事と変わりなく、大変ではないか。平日も放課後、先生たちが忙しくなるのではないか。（小田委員）

・平日の部活動終了時刻は17：45にしている。市内の中学校の中では早いほう。子供たちが安全に下校できるよう配慮しているが、教員の負担・働き方については検討が必要である。（教頭）

（4）働き方改革の推進について

議長の指示により、校長から働き方改革の推進について説明があり、委員からは以下の発言があった。

・そもそも人が足りていないと思う。市の方で教員の配置についても考えてもらいたい。年間の授業量や内容的に先生が休めない状態になってしまっているのではないか。こういった問題点を一緒に考えたり、学校を支援したりするためにこの会があると思う。具体的に教員が何に困っているのかを現場任せにするのではなく、デジタルを活用して市や県が吸い上げる仕組みを作ってもらいたい。（飯塚委員）

・休むことで周りの先生への迷惑を考えていると休めない。お互い様なので、休む日を指定してはどうか。家庭科や美術のボランティアのように、授業を見守るだけでいいのであればそういうボランティアを募集してはどうか。（山田委員）

・学校側がもっとオープンに人材の募集をして、リストを作ってみてはどうか。また、民間企業のようにパソコンを持ち帰れるように仕組みを変えられないのか。（大橋会長）

・パソコンを持ち帰る場合、データの流出を防ぐために、データはパソコンに入れるのではなく、サーバに残す形にしなければならない。また、授業のボランティアもいいが、教員免許がないと授業として成り立たない。まずは、定時に終われるように考えるべきでは。（中津川委員）

その他連絡事項

司会から、次回会議は 11 月 13 日（金）14時から 2F 会議室で開催する旨の報告があった。